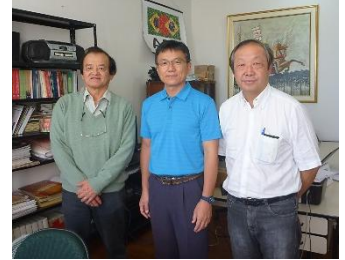


O unico encontro na vida

ABD (出稼ぎ協会) 発 現在のブラジル出稼ぎ事情をきく

最近では、協会へは連絡せず出稼ぎに行く世帯が多く、帰国時の相談にのる場合(2015年度、30世帯程度)がほとんどである。『職探し』が相談の多くを占める(2013年頃、職は多数あったが、給料は安い。現在は、働ける職すらない不景気)。また、昨年度ブラジル帰国者が集まる「帰国者の会」を実施したところ、ひと家族だけの参加であった。年々、ニーズは衰退してきている。



■■ 平松 ABD会長(写真左)、原 日系クラブ会長(写真右)との出会い

出稼ぎ世帯の課題…家庭内での親子の会話が成立していない場合が多い。親は貯蓄のために出稼ぎに行くので、日本語を覚える必要はなく、ブラジル人学校に入学させるお金もない。一方、日本の学校は、この子が日本で生きていくために必要な基礎学力等の育成を目ざしている。母語であるポルトガル語も日本語も習得率が低い(生活レベルでも使えない)ため、帰伯後しばらくの期間は、苦勞する子どもが多いらしい。しかし、「子どもは一年程で馴染むようになるよ」と平松氏は微笑む。

局長補佐 ファビアナ カンポス氏との面談

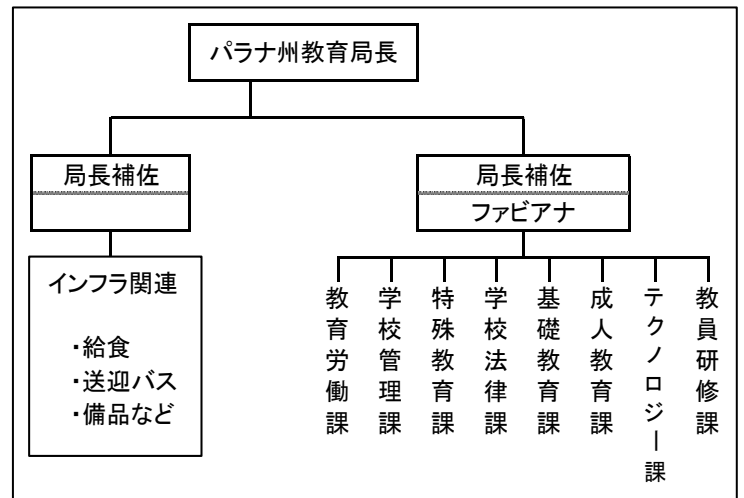
◎学習到達度向上が喫緊の課題

- ・高校の魅力をいかにして向上させるか。
(保護者や生徒の意見を吸い上げる)

◎学校管理課の業務

- ・校長、教頭、清掃員、給食担当員、ペダゴゴ(職務:研究主任、保護者の対応、※授業をもたない)等の指導管理
- ・校長の選出方法
「保護者、生徒、教職員」による選挙
- ・1週間の勤務…40h(午前、午後、夜)
▽内訳:26h 授業、14h 準備

パラナ州教育局の組織



戦略家 ビビアン所長

[パラナ州教育事務所本部] 6年~高校 165校、特別支援学校 45校を所管

若くして校長職に就き、在職10年間に様々な教育改革を成された。その手腕が買われて教育事務所長の職に就いた。その後も、学校教育力の向上に向けて様々なてだてを講じている。(⇒:成果)

☆選出された校長とその家族を集め祝賀会を開いた。認証状を手渡し、名誉と責任をもたせた。

⇒生徒の様々ながんばりを認め、賞状を手渡す学校が増えた。

☆文化芸術発表会(バレエ、絵画、演劇、ダンスなど)を企画した。※参加は任意、運営は生徒主体。

⇒生徒の心と才能を開花させ、登校刺激にも繋がった。更には、学力テストの平均点が向上した。

☆市内の州立学校に何名かの職員を常駐させた。毎週水曜日に会合を開いて戦略等の協議を行う。

⇒学校現場の状況を把握しやすく、相互連携及び情報等の共有ができるため組織の活性化を図れる。

☆教育活動の様子を写真や動画で教育事務所に送付するように指示を出した。ホームページに学校教育活動の様子をアップすることで、市民やマスコミ等に学校のよさを情宣している。